

## OB・OG会長の挨拶

—— Keep looking. Don't settle. ——

第1期ゼミ長 白木 俊介

このところ変化が激しく、この1年に一度のOB・OG会誌で伝えられることは限られてしまっていますが、私の近況を少しでもご紹介できればと思います。昨年のOB・OG会誌をお読みいただければ、一昨年よりシンガポールで仕事をしながら、NUS（シンガポール国立大学）のMBAにパートタイムで通っていることがわかると思います。その後、昨年の12月に働いていた会社を退職、1年早く卒業するべくMBAをフルタイムに切り替え、30代も後半に差し掛かっていますが、ここで再度、学生に戻りました。今年1年間、学校に通いながら、異業種のインターンシップをして、新たな道を模索する年にしようと思います。まだ、妻も娘も東京で暮らしていますが、妻の職がシンガポールで見つかるのならば、妻と娘も引っ越して、家族でシンガポールにて過ごすことを画策中です。今年1年で、この後、アジアで働いていくのか、それとも、日本に戻るのか、じっくり考えたいと思っています。

そんな状況を親類に話すと、「もう、30代後半になるのだから、そろそろ、落ち着いてくれ。」といわれることもちらほら。一般的な日本のマジョリティからかけ離れたことをしているので、そうやって心配する親や親類の気持ちも、わからないわけではないのですが、「果たして、本当に落ち着いてしまっているのだろうか。」と思うこともしばしばあります。これは、日本の外から日本を見ているからなのでしょう。



勤務先のクリスマスパーティーの様子

◆Keep looking. Don't settle. ——見つかるまで探し続けること、落ち着いてしまっはいけない——

世の中が大きく変わろうとしています。日本は一向に変わろうとしないように見えます。ある意味、落ち着きを払っているように見えます。すこしずつ、色々な日本のシステムが疲弊していることは、データを見れば明らかな気もするのだけど、表向きは落ち着いたように振舞いながら、現役世代はその裏

側で、何とか、このシステムを繕うために重荷を背負わされているようにも見えます。

シンガポールでの日本企業の人気は、欧米のグローバル企業に比べて、とても低いです。なぜなら、日本企業は2、3年で駐在員が入れ替わり、その駐在員が英語を話せないため、シンガポール人にも日本語を話すことが求められます。日本人は英語が話せないというのは、世界の共通認識となりつつあります。また、日本の人事制度がそのまま、海外でも適用されるため、日本のプロパー社員が優遇され、欧米のグローバル企業のように能力に応じて出世できないことをシンガポリアンも知っています。優秀な人ほど、日本企業を選びません。柔軟に人事制度を変えていかないと、人材獲得競争で欧米だけでなく、韓国にも負けてしまうのですが、その危機感を持っている駐在員が少ないのが事実のようです。



家族がシンガポールに遊びに来た際の記念写真， Garden by the bay にて

また、長期の視点で見ると、日本は人口減少、高齢化による年金、健康保険制度の問題を抱えており、今後、厳しくなることが事実。一方で、医療の進化により、100歳まで生きるのが当然の時代を迎えそうな世の中であることも事実。どう考えても、60歳で定年して、65歳まで雇用されたとしても、100歳まで、年金と貯金でやっていくのは無理な時代がくることが明らかに思います。だから、最近、思うことは、1つの仕事に一生を捧げるのではなく、副業などを考慮したり、パラレルキャリアを模索したりすることが大切だということ。働き方改革がどんどん、求められる時代がくると思います。考えれば考えるほど、落ち着いてはもらえず、何か、新しい学びを得たいと思うに至るわけです。

◆生きている限り奪われないもの、それは知識である

ユダヤ人は迫害の歴史のなかで、「生きている限り奪われないもの、それは知識である」という言葉を残しています。故郷を離れ、新たな土地に同化してもまた逃げなくてはならないという過酷な状況を経験してきたユダヤ人にとって、「知識」が自分たちの未来を切り開く唯一の手段だったといえるかもしれません。生きる手段として知識を身につけること。この考えが、ユダヤ人の教育方針の根底にあります。そして、その教育方針は、子どもの頃から死ぬまで続くのです。



NUSの授業風景 (Management & Organization class)

MBAの受験で、IELTSやGMATの勉強で苦しんでいるときに、ユダヤ人の老人が学んでいる画像をウェブで見つけて、えらく感銘を受けたのを覚えています。「新しいことを始めるのに、遅すぎることはないのだな」と思いました。そして、この写真のように、「一生涯、学ぶ意識を持ち続けよう」と思いながら、子育てをしながら勉強をしていました。

モノや場所、地位に縛られず、常に新しいことを学ぶことに食欲である歳の重ね方をしたいものだと思います。OB・OGの皆さんも、きっと、出世されて、重要な地位に就かれていると思いますが、たまに、現状を疑うために、海外に出てみるのもいいかもしれません——Stay hungry, Stay foolish.

2017年1月29日(日):旧正月の夜、隣の家からワイワイと家族麻雀の音が聞こえるシンガポールのHDB(公団住宅)のひと部屋より。

